

薬の伝言板

～結核～



No. 232 2017年3月
丸子中央病院 薬局

○結核とは・・・

結核は、結核菌という細菌が体内に入ることによって起こる**感染症**です。主に肺の中で増えるため「咳・痰・発熱・呼吸困難」などの風邪様症状がみられます。肺以外にも腎臓・リンパ節・骨などの全身に広がることもあります。日本では毎年1万8000人程度の患者が発生していて、特に人口の多い都市部で多い傾向にあります。



○主な症状

結核は肺結核患者の咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散り、周りの人がその結核菌を吸い込むことにより感染（**空気感染**）します。手を握る、同じ食器を使う、などで感染することはありません。結核菌に感染しても必ず発症するわけではなく、10人が感染した場合、発症するのは1～2人です。しかし、体力が低下したり、他の病気によって免疫機能が落ちたりしていると発症リスクが高くなります。



○検査

X線検査	初期・軽症の診断に用いられます。通常の平面撮影のほかに CT撮影 なども用いられます。ただし、肺炎などの似た所見を示す病気や結核が治った痕跡の場合のこともあるため、X線診断だけでは判断が難しいことがあります。
ツベルクリン反応	結核感染の有無を診断する検査です。結核菌の成分（ツベルクリン）を皮内に注射して、48時間後に皮膚の発赤を測定して、一定以上の大きさになると「陽性」と判定します。
クオンティフェロン検査	結核の感染を診断する技術で、血液を採ってこれに結核菌に固有の抗原を作用させ、その反応を測定します。
喀痰検査	痰を調べる検査です。痰を顕微鏡で見ても細菌を調べたり菌の一部を培養したりして、菌の種類を見極めます。



○治療

治療には抗結核薬を服用します。服用期間は、基本的に6ヵ月ですが、個人の病状や経過によって長くなることがあります。



抗結核薬	注意すること
① イソニアジド	肝臓が悪い人には注意が必要です。 手のしびれなど末梢神経障害が起こることがあります。
② リファンピシン	食前に飲む薬です。尿や便、汗が赤くなることがあります。またソフトコンタクトレンズが変色することがあります。
③ エタンブトール	眼がかすんだり、見えにくくなったりといった視覚障害が起こることがあります。定期的な検査が必要です。
④ ピラジナミド	重篤な肝障害、黄疸があらわれることがあります。 定期的な検査が必要です。
⑤ ストレプトマイシン	難聴、耳鳴、眩暈などの聴力障害が起こることがあります。 定期的な検査が必要です。

最初の2ヶ月は上記の薬から①、②、③、④（または⑤）の4剤を併用します。その後4ヶ月は①、②の2剤を併用し、計6ヶ月間治療を行います。また、肝臓が悪い人や80歳以上の高齢者では3剤で治療することもあります。

* 検査の結果、感染が疑われた場合はイソニアジドを6ヶ月間服用し発症を予防します。

治療を始めて1~2ヶ月すると咳や微熱などの症状がおさまってきます。この時薬を止めてしまうと、弱っていた結核菌がまた増えてしまい、薬の効かない耐性結核になることもあります。完全に結核菌を死滅させるために、絶対に自己判断で薬を止めないようにしましょう。



○予防

BCGは結核の重症化を予防するためのワクチンです。特に子供の結核予防に有効で、1度接種すれば10~15年程度、効果が続くと考えられています。日本の定期予防接種では、生後1歳未満（標準的な接種は生後5~8か月の間）に接種するように推奨されています。

普段から、定期健診をきちんと受ける、咳をする場合には口元をティッシュや布で押さえる、またはマスクを着用する（咳エチケット）、風邪のような症状が続いたら早めに病院にかかる、というのは現代の社会的マナーと考えてください。



発病・排菌中の患者さんが周囲の人に感染させた可能性がある場合、患者の住所を管轄する保健所が患者本人の病状確認や接触状況などを考え周囲の方々への健診を実施します。

早期発見は重症化を防ぐばかりでなく、感染拡大を防ぐためにも重要です。